

最新の研究成果を、分かりやすく解説

第11回

PIASセミナー

宿主変われば色変わる ～ナマコ寄生性ゴカイ類のカモフラージュ～

保護色によるカモフラージュは、捕食を免れるための手段として幅広い生物で知られています。ナマコウロコムシは、ナマコ類の体表に寄生するゴカイ類ですが、複数の種を宿主として利用し、驚くべきことに各個体が利用する宿主種と同じ体色（黒、白、茶など）を持ちます。この宿主に応じた保護色が、同じ種の中での多様性によるものなのか、宿主ごとに異なる遺伝的特徴に起因するものなのか不明でした。

愛媛大学先端研究院沿岸環境科学研究センター（CMES）の濱本耕平助教は、京都大学・大阪教育大学・琉球大学の研究者らによる研究グループの一員として、琉球列島において14種のナマコ類から本種を採取し、各個体と宿主の体色の一致パターンを明らかにするとともに、DNA解析により、宿主特異的な保護色が遺伝的分化に基づくものでないことを示しました。この結果は、宿主に応じたカモフラージュが種内の可塑性によって達成されていることを示しています。

本研究成果は2025年12月10日にドイツの国際学術誌「Marine Biology」に編集長が選ぶハイライト論文として掲載されました。



濱本 耕平 助教
愛媛大学先端研究院
沿岸環境科学研究センター

EHIME UNIVERSITY
CMES
CENTER FOR MARINE ENVIRONMENTAL STUDIES



ナマコ類の体表に寄生するナマコウロコムシ
(クレジット：京都大学 後藤龍太郎・杉山高大)

2026 **4/1** 水
16:00~16:30

eu-PIAS

どなたでもご参加いただけます

オンライン開催

セミナーのログイン情報は、EU_BBSをご覧ください。
学外の方は事前に参加登録をお願いいたします。

〈お問い合わせ〉

愛媛大学 先端研究院 先端研究高度支援室
E-mail: pias_adm@stu.ehime-u.ac.jp

参加申込フォーム

